

“まち普請”に新たな3提案が加わりました!

平成23年度 ヨコハマ市民まち普請事業 2次コンテスト



模型やパワーポイントを使って発表する提案者

2月4日(土)10時半から、横浜市開港記念会館で、2次コンテストが開催され、新たに3つの整備対象提案が決定しました。冬の寒い日でしたが、会場は140名余り集まった参加者の熱気でムンムン。午前中は、各提案グループのプレゼンテーション、審査員との質疑応答のあと、「創意工夫」・「実現性」・「公共性」・「費用対効果」・「地域まちづくりへの発展性」の5つの視点から3段階に評価されます。午後は、評価の視点に沿った公開議論が行われ、続く公開投票にて3つの提案への整備助成が決定しました。全てが満票を得る、魅力ある提案でした。地域住民の思いが形になり新たな公共空間が生み出されることが期待されます。



左：審査基準別評価に沿って、質疑応答をする提案者と審査員
右：コンテスト終了後、交流会でほっと一息

平成23年度 整備助成対象提案

金沢区 地域力醸成の拠点となる
コミュニティーサロンの整備

湘南八景自治会役員と湘南八景「お助けマン」
商店街の一角を購入し、誰もが気軽に立ち寄り、交流や情報交換ができるサロンを開設します。

瀬谷区 阿久和北部見守り合い拠点・
大きな傘「みまもり広場」

阿久和北部見守り合いネットワーク実行委員会
公園内に見守り合いの拠点を建設し、乳幼児親子や高齢者の安らぎ・交流の場を作ります。

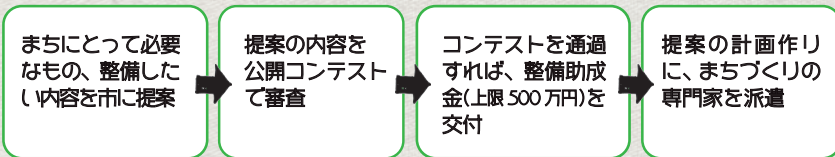
南区 新観光地域活性構想歴史と
文化のある街・お三の宮通り

お三の宮通りまちづくり委員会
南区のお三の宮通りに「宮前の雰囲気を感じられるモニュメント」、「歴史・文化を紹介する案内板」等を整備します。

ヨコハマ市民まち普請事業

平成24年度 身近なまちづくりの提案を募集しています!

応募期間 平成24年 4月9日(月)~5月11日(金)



まち普請事業に関する相談窓口を常時開設しています。ご興味のある方はお気軽にお電話ください。

045-671-2679 横浜市都市整備局地域まちづくり課

くわしくはまち普請事業ホームページをご覧ください。



※応募総数が6件に満たない場合、平成24年度の選考は休止し、平成25年度に改めて募集を行う場合があります。

ヨコハマ人・まち

まちへ人がまちをつくる

発行：横浜市 都市整備局 都市づくり部 地域まちづくり課
Tel 045-671-2696 Fax 045-663-8641 E-mail: tb-chiikimachika@city.yokohama.jp
取材・編集：NPO法人 市民セクターよこはま
Tel 045-222-6501 Fax 045-222-6502 E-mail: info@shimin-sector.jp

vol. 39

まちの未来図を描く

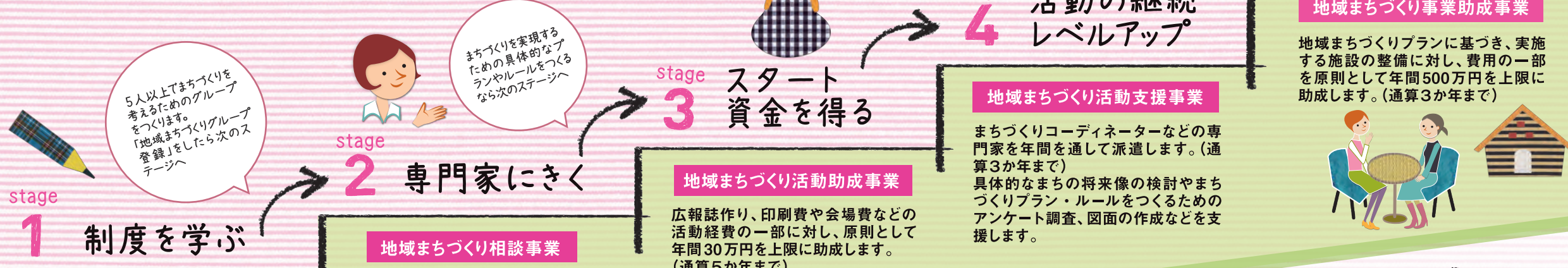
地域住民主体のまちづくりを支援する制度を活用しよう



「横浜」と言えばどんな景観を思い浮かべますか？ 港、洋館、教会…誰もが思い浮かべる「横浜」のイメージを色濃く残すまちとして、中区山手地区があげられます。この地区では、横浜開港当時のたたずまいを残し、住みよい環境をつくるため、住民自らが「山手まちづくり推進会議」を組織し、住民発意のまちづくりのルールをつくりました。このように横浜市には、まちの未来図を自分たちで描くためのまちづくりのルールやプランをつくりたいと思った時に、活用できる支援制度があります。この制度を利用し、まちづくりを進める山手地区をご紹介します。

まちの未来図を描く 横浜市 地域まちづくり支援制度って？

地域の課題解決や魅力向上など、身近な地域のまちづくりに関する活動を行うとき、様々な相談ができ、専門家派遣や活動助成、整備費助成などの支援が受けられる制度です。この制度は「横浜市地域まちづくり推進条例」に基づいて、地域まちづくりを進めるために定められました。



さらにさまざまな形で未来図に沿ったまちづくりを叶える・・・

出前塾
「こんなまちをつくりたい」と思ったとき、市職員が地域に出向いて、まちづくり制度などについて説明します。

山手地区の活用例を見てみよう

平成4年に行政の呼びかけにより、住民有志・行政担当者・専門家による「山手まちづくり懇談会」が組織され、継続的な議論の場が整いました。

制度ができる以前であったので、独自で取り組んだ。

地区への愛着を共有できる専門家との出会いが活動の契機に！

山手地区の場合、山手まちづくり憲章の策定、山手234番館の市民運営とそれに続く西洋館ボランティアネットワークの組織化など、現在の活動の基盤となる取組の段階から、市のまちづくりコーディネーターとして登録されている菅孝能さんの継続的な支援を受けています。

接点の少ない別々の町内会がひとつの組織に！山手らしさとは何か？活動の大きな山場に！

平成14年、学校跡地のマンション開発に対する反対運動を契機に、地元住民などの発意でまちのルールを検討するため、「山手まちづくり推進会議」が発足し、山手地区の将来像を示すための議論をおこないました。同時に、「山手まちづくり通信」を創刊し、現在も年4回発行しています。

地区計画の導入が次の山場に！ガイドの配布で住民の理解・協力度がアップ！

山手まちづくり推進会議では、景観保全を前提としたまちづくりを目指し、平成16年に「山手町地区地区計画」ができました。また、理解をより広く確実に浸透させるため、山手町全域を対象とした「山手まちづくり協定」を平成17年に締結し、ルールをまとめた「まちづくりガイド」を作成しました。さらに、山手のまちづくり計画が「地域まちづくりプラン」として、平成20年に認定されました。

まちづくり協定をさらに強化！「地域まちづくりルール」へとステップアップ！

その後、山手地区の住民の意に反するような、大規模な宅地開発やコインパーキング等がつくられるようになりました。「山手まちづくり協定」が、紳士協定であり、事業者等への法的強制力を持たなかったからです。そこで、山手地区では、市や財団の活動助成金・まちづくりコーディネーター派遣等の支援制度を活用しながら、協定の見直しを始めました。その結果、平成22年、具体的な数値などを規定しレベルアップした「山手まちづくり協定」ができ、平成23年に「地域まちづくりルール」として認定されました。

今後のこと

鈴木さん：多くの住民・関係者のご理解・ご協力を頂き感謝していますが、一部にルールに従ってもらえない方もいます。少数意見にも耳を傾けながら、地道な協力への呼びかけを続け、現在の良きまちの環境の維持・更なる向上に努めていきます。

石川さん：山手の歴史と緑ゆたかな住宅・文教地区の環境を受け継ぐために、引き続き行政やまちづくりコーディネーターの支援のもと、新たな課題に取り組んでいきます。

山手まちづくり推進会議のみなさんが語る

制度活用のメリット

1 まちづくりコーディネーターによる強力なサポート

活動当初から継続して住民主体の活動の推進を支え、次のステップへ導く

代表幹事
石川 喜三郎さん (76歳)
昭和30年代以降、結婚を機に西部地区に在住。現役時代は高校の教員でした。

耳慣れない専門用語が使われる中、毎回参加者の話をまとめるのが大変でした。菅さんは会議に毎回参加するとともに、住民の要望を的確にまとめ、次のステップへの道筋を作ってくれました。おかげで山手地区としての一貫した考え方を確認し、ルール認定に結びつけることが出来ました。

2 市からの適切な情報提供とバックアップ

住民発意のまちづくりルールが、建築時に必ず運用される仕組みを作る、行政ならではのサポート

幹事
鈴木 俊夫さん (76歳)
平成17年に鎌倉市から移住。現役時代は通信系の技術者でした。

より確実にルールを浸透させたいという住民の願いと、風致地区でもある山手の景観保全という市の目標が合致し、紳士協定から「地域まちづくりルール」へとレベルアップさせることができました。認定されたことにより、多くの住民・事業者への周知と理解につながり、運用件数がアップしました。

3 助成金の活用

まちづくりコーディネーター派遣や活動経費について各プロセスで助成金を受け、さまざまな取組に活用

事務局
佐武 洋さん (67歳)
昭和30年、中学生の時に転入。社会人となってからは土木系の技術者として関西で生活。平成10年に山手に戻りました。

コーディネーター派遣のための費用の一部に助成金を活用しました。当初からコーディネーターによる継続的なアドバイス・指導が受けられたのが大変大きな力となりました。さらに、活動が維持管理段階にある時にも、切れ目のない支援が受けられるといいですね。

山手まちづくり推進会議と私
山手総合計画研究所 代表取締役
菅 孝能さん

コーディネーターとは、翻訳者だと思います。住民の意思・要望を行政用語に翻訳して理解させ、行政の仕組みを住民の日常感覚に翻訳して伝えることが私の役割だと心得ています。そして、市民まちづくりは、一つの達成感が次の挑戦の力になることを実感してもらい、「やればできる」という自信を住民皆が共有するよう心がけて一緒にやってきました。そのためには、まず、先手必勝、事件が起きてからでは遅い、常に不測の事態に備えてルールや計画を考えておくことが大切です。次に、記録とデータを作ること。利害関係者との交渉では、「言った」「言わない」の応酬を避け、資料を使って論理的に説得することが不可欠だからです。さらに、市民まちづくりの大きな課題は後継者の育成だと思っています。